

新庄中生が寄付十数年

A M D A に募金やバザー収益

新庄村立新庄中の生徒たちが、同村の桜を見物に来た観光客らを対象に行った募金やバザーの収益金を国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(菅波茂代表)に贈った。寄贈を始めて十数年。今年は菅波代表が同校を訪れ、長年の協力に謝辞を述べるとともに、東日本大震災でAMDAが行った支援の様子などを話した。



菅波代表に募金の目録を手渡す川上生徒会長(新庄中で)

同村は、日露戦争の勝利を祝って村中心部に植えられた「がいせん桜」が有名。多くの観光客が訪問するシーズンに合わせ、同校では14、15年前から「さくら祭り募金」と銘打って生徒が花の下で募金活動を展開。保護者らから提供された日用品などを販売したバザーの収益金と一緒にアムダに贈っている。

今年、震災の被災者に配慮して毎年行われている「がいせん桜まつり」は中止になったが、まつりが予定されていた4月17日、全

「これからも一生懸命やりたい」

生徒29人が出て募金活動。生徒会長の川上将司さん(3年)が、バザーの収益金と教員の寄付を合わせた15万7213円を贈るとした目録を菅波代表に手渡した。

この後、菅波代表が岩手県大槌町などで行った被災者支援の様子をとらえた写真をスクリーンに映しながら、震災でのアムダの活動を紹介。生徒会副会長の稲田大知さん(3年)は閉会のあいさつで、「新庄中の募金が世界や日本人のために使われているのがわかった。これからも一生懸命、募金活動をしたい」と話していた。